

II 研究部の実践研究

1. 授業づくりグループの実践

(1) 研究の内容

新学習指導要領を踏まえた指導計画づくり

「単元のまとまりを見通した指導計画の作成」

「本時の目標と活動，まとめにねじれない指導計画の作成」

昨年度は『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた指導の工夫・改善」という主題のもと，そのモデル授業づくりを進め，「話し合い活動」と「乗り入れ授業（小中連携）」を主な研究内容とし，研究を進め，授業公開を行った。そこで研究してきた指導計画作成のノウハウを，これからの未来を担う若い先生方に伝達したいと考え，今年度は研究を進め，採用1～5年の教員対象の研修講座を行った。



(2) 研修講座について（研修講座報告）

①授業づくりの根幹となるもの

授業づくりや指導案作成を進めるにあたり，学習指導要領を熟知しておく必要がある。そこで，まず，研修講座では，「学校に求められているもの」「学習指導要領の方向性」について，確認する時間を取った。

その将来を生きる 子どもたちを育てる「学校」

→一人一人の児童が、

- ①自分のよさや可能性を認識するとともに、
- ②あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、
- ③多様な人々と協働しながら
- ④様々な社会的変化を乗り越え、
- ⑤豊かな人生を切り拓き、

⑥持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

新学習指導要領前文
より

学習指導要領改訂

ア 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目などの新設や目標・内容の見直しを進める。

イ 何ができるようになるか

○生きて働く知識技能の習得
○思考力・判断力・表現力などの育成
○学びに向かう力，人間性の涵養
を目指すために、「評価」が重要となる。

ウ どのように学ぶか

「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習課程を改善し，新しい時代に求められる資質・能力を育成する。そのために学習課程の質的改善を図る。

授業の根幹となる学習指導案の作成が、「①何を学ぶか」「②何ができるようになるか」「③どのように学ぶか」においての、子ども達の学びの方向性を明確にする地図となる。

子ども達と「これまでの学び（何を学習してきたか）」と「これからの学び（何を学習していくか）」を共有できる授業づくりを目指したい。

②指導案作成について

<指導計画づくりの3つのポイント>

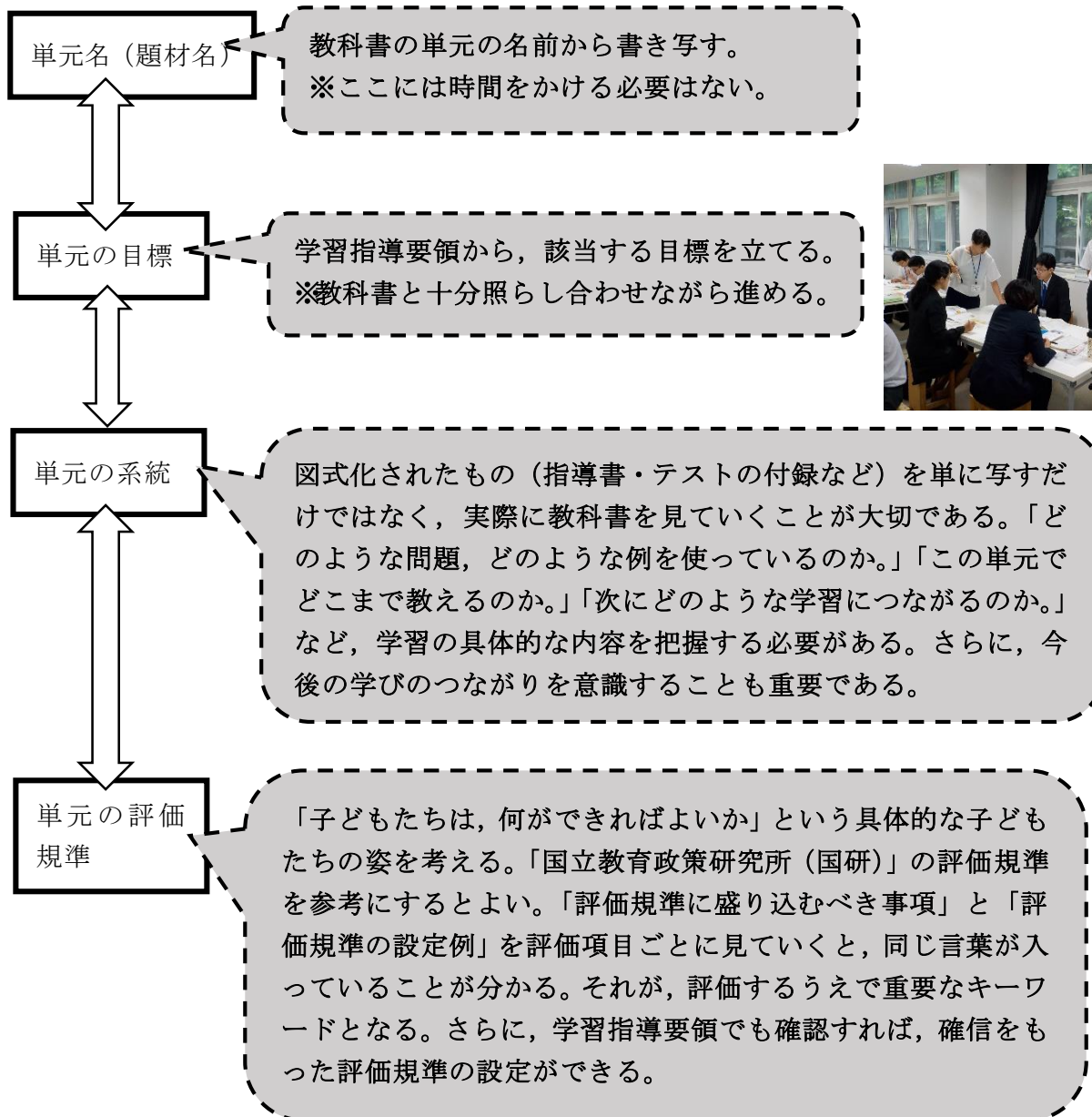
○毎回考えるのではなく、まとめて一気に指導計画を考えること。
時間短縮になり，今後の学びの見通しをもつことができる。

○主体的な学びの第一歩は，子どもたちが「自分が今，何を学んでいるのか」が分かること。そこを目指した授業を作るとよい。

○授業の中で，子どもたちと何を共有して，どんな指示で動かそうかをイメージすること。その学習を進める方法は無限にあるので，どれがよいかを吟味するとよい。



③指導計画作成における大前提



④単元の指導計画作成について

学習活動ありきの授業にならないために、目標・主な学習活動・評価がある中で、目標（何ができるようになればよいか）と評価（どうやって見取るか）が表裏一体にあるので、目標か評価から考えていくとよい。目標や評価が定まったところで、それを達成させるための具体的な学習活動を考えると、「目標⇔学習活動⇔評価」が一体化した一単元が構成できる。

目標・評価は、国研の評価規準から引用しつつ、その一単位時間に合った内容を設定する。その目標達成のために何を取り組ませたいかを、子ども達の姿を思い浮かべながら考え、その時間の何で（どこで）評価するのかを決める。また、評価項目をバランスよく配置し、評価に追われない授業構成にすることも重要となる。（一単位時間に評価項目は1つが望ましい。）

学習活動については、「何を」「どのように取り組ませるか」という子どもたちの具体的な活動の姿を考えるとよい。教科書を熟読し、問題文やまとめを見ると、さらにイメージしやすい。

<単元の指導計画例>

「単位時間の目標」と「評価規準は」表裏一体。ここが授業の骨組となります。ここから考えて、最後に「学習活動」へと進めていきましょう!

時間	単位時間の目標	○主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	「復習問題」「準備問題」	○復習・準備問題に取り組み、平均の出し方やグラフの描き方を想起する。	【関】平均やグラフに表すよさに気づき、進んで問題解決しようとしている。 □ノート・発言
2	資料について話し合い、情報を整理して、資料の調べ方に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	○散らばりについて知り、数直線上に点で表す。散らばりの特徴やよさを交流する。	【関】(技)資料の散らばりが分かる表し方に興味関心をもつ。散らばりの様子を表すことができる。 □教科書・発言
3	散らばりを表す度数分布表を作ることができる。	○前時に作成した散らばりが分かる数直線を生かし、度数分布表を作る。	【技】度数分布表を作ることができる。 □ワークシート
4	度数分布表を活用して、柱状グラフを作ることができる。	○前時に作成した度数分布表を活用し、柱状グラフをかく。	【技】柱状グラフのかき方を知り、それをかくことができる。 □ワークシート
5	度数分布表と柱状グラフから資料の特徴を表現したり考察したりすることができる。	○度数分布表や柱状グラフを考察し、根拠をもって説明する。	【考】度数分布表や柱状グラフから、根拠をもって説明し、資料の特徴を読み取ることができる。 □ノート・交流

国研の評価規準から引用しつつ、その時間に合った目標を定める。

4つの評価規準がバランスよく入るように、考える。

何で評価するのかを考える。評価に追われないことも念頭に置く。

縦に見るだけでなく、「単位時間の目標」「学習活動」「評価規準」の3つが三位一体になっているかを再度確認する。教科書の問題文やまとめなども授業の根幹となるので参考にするとよい。

④指導計画を立てたら…

「学び」は子ども達のものなので、子ども達が迷子にならないように配慮していきたい。子ども達自身が「今、何を学んでいるのか」「何ができるようになればよいのか」を主体的に理解できていると、子ども達が自ら学んだり、これまでの学びをつなげたりしながら、深い学びを進めることができる。重要なのは、単元を通してのゴールを明確にもっておくこととなる。それがぶれることが無ければ、指導内容に自信をもつことができる。

「学び」は子どもたちのもの



→子ども達が迷子にならないように…

子どもたち自身が「今何を学んでいるのか」
「何ができるようになればいいのか」

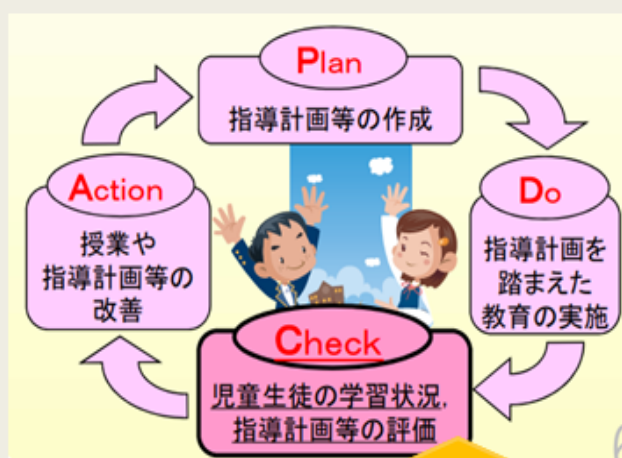
を理解できていると、

子どもが自ら学んだり、
これまでの学びをつなげながら
深い学びを進めることができます。



計画を立てた後

授業は生き物なので…



- ①実際に進めながら…
アプローチの仕方
を変更！
- ②既習事項の定着が甘
かった！の部分朝
学習や宿題で補填！

単元を通してゴールを明確にしておけば、
指導内容がぶれることがない！

初任で授業づくりに悩むことが多かったので、参考になりました。

研究所の方が気さくに話しかけて下さり、質問しやすく、アドバイスをたくさんもらえました。

研修内容が簡潔で分かりやすかったです。今回教わったことを、自校に帰っても実践したいと思います。

単元の指導計画では、算数だけは作るようにしていましたが、「まだまだ作りが甘かったな。」と反省しました。

先に評価から考えることが勉強になりました。

細かいところまでしっかり計画を立てていかなければならないと実感しました。



8月23日の授業づくり 研修講座受講者からの声



他の先生方と相談しながら考えたので、考えが膨らみました。

頭をたくさん使いました。質問に丁寧に答えてもらい、うれしかったです。計画的に授業づくりを進めていこうと思います。

これからの自分自身の教材研究の見直しをがんばろうと思う心もちました。

同じ学年の先生方と一緒に授業を考えることができ、良い経験になりました。

授業づくりに大切なことを改めて確認できてよかったです。

同じ学年の先生方とお互いに近況報告し合えるのが、とてもいい刺激になりました。

単元の指導計画の重要性に気付くことができました。

課題が終わりきりませんでした、「こうしてみようかな。」という算段を付けることができました。

(3) 成果と課題

①成果

- ・1つの授業、1つの単元についてじっくり教材研究をするよい機会となった。
- ・指導計画作成を通じ、教材研究の仕方や日常の学校の話題の交流などを通して、同じ世代の教員同士のよい交流ができた。

②課題

- ・指導計画作成を重点にしたために、作成した指導計画を交流する時間が少なかった。
- ・今回は算数科に特化したので、他の教科や分野を題材にして講座をもつことができればよい。